

四十一回蒼天句会 今月の一句

令和八年三月十二日 兼題…種物、又は自由

花のこゑ聴くかに振れり種袋

公子

白木蓮風の序奏に開き初む

婦紗子

春風や睦みし友の遠くなる

賢一

蒔く日まで愛書の葉種袋

繁一

ねんごろに蒔く友からの花の種

孝志

土間奥に秤の光る種物屋

洋一

山笑う阿蘇外輪をバスの旅

信江

祝婚のピアノの調べ花ミモザ

静江

妻へ文微かな妬心春の宵

鎮夫

種選み清水に浸し蒔くを待つ

国祥

倉並ぶ喜多方の町春兆す

隆彦

帯ポンと叩き傘壽の春まつり

重子

種物屋話は日射し浴びながら

朱美

とりどりの種袋ある雑貨店

紹子

要らぬとは言へず鞆に種袋

晴代

花種もびつくりせしやこの陽気

久恵